

議事録 20191216 第 12 回まちづくり町民会議

1) 会長あいさつ

会長：年末のお忙しい時期にも関わらず、お集りいただきありがとうございます。ご参加の皆さまそれぞれの顔が見える形でテーブルセッティングを変えてみましたので、是非色々なご意見を聞かせていただければと思います。

これまで議論してきた新庁舎建設について、町長に答申を行うことになっていますので、本日は皆様に新庁舎建設の基本事項について確認をしていただき、その後、今後の町民会議の在り方などについて話していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

2) 答申書（案）の確認

◆3 ページ目について

委員：傍聴席についてどこにも記載されていないが、設置されるのか。

事務局：傍聴席、車椅子対応の傍聴室も設置予定。

事務局：議会の在り方については議員の方で協議してもらえないかと要望し、2 回ほど話し合いを行っている。傍聴席については、知名町は他の市町村に比べ団体の傍聴が多いため、現状の 36 席はぜひ確保して欲しいと議員から提案があった。合わせて、車椅子の方も傍聴できるスペースの確保や段差をなくすなどの配慮について、議員の間でも話し合われてい

る。

委員：議長室はどうなるのか。

事務局：もちろん、議長室もある。補足だが、視覚や聴覚の障がいを持つ方にもやさしい構造の傍聴席を考えていこうという回答をもらっている。

委員：和泊町は議会をカメラで生中継するため、傍聴席数を取って少なくしていると聞いた。知名町はどう考えているのか。

事務局：和泊町はサンサンテレビがあるが、そちらで傍聴できるため座席数が少なく狭い。知名町の場合は、議場で議事進行を見てもらいたいということもあるので、十分な座席数を確保していきたい。さらに、議事進行を分かりやすくするため、傍聴席にモニター設置をして進行表を見ながら傍聴していただけるような形にできないかと議会事務局と話し合っている。

事務局：補足だが、新庁舎でも引き続き、YouTube 等での議会のネット中継を行っていくと聞いている。

委員：書庫について庁舎内と7 構造体の鉄骨造にも車庫がるがどちらを正で利用するのか。

事務局：近場にあった方がいい重要書類を庁舎内に置き、使用頻度は低い重要な書類を保管する書庫を鉄骨造内に置く。2パターン使い分けて設置しようと考えている。

委員：書庫は非常に大事。万が一、火災が発生したときにどうするのかなど、詳細が見えないので心配になり発言した。

事務局：現在も、町民課には火災から重要書類を守るために金庫を設置している。新庁舎においても、町民課の重要書類については耐火構造の中に金庫室を設け保管し、鉄骨には5年単位で廃棄してもいい書類を保管、それ以外の書類については他の保管場所に置いて整理していこうと考えている。

◆5ページ目について

委員：スマートフォンの充電スペースを設置予定ということだが、お年寄りが乗っている電動カーの充電も含まれるのか？

事務局：必要性を検証してから、屋外に充電スタンドを確保するかどうか決定したい。商工会では電動カーの充電ができる店が数店舗ある（amicaさんなど）。シール(右図)が貼ってあるので確認して欲しい。



委員：デジタルサイネージは、企業や団体の広告を出せるようにするのか？ 広告収入にもなるのではないかと、思っている。

事務局：メインは行政情報にはなるが、一般企業の広告ができるのかぜひ検討したい。

委員：屋根付き駐輪場は何台くらいを予定しているのか。

事務局：前回の協議の中で、雨に濡れないよう入口の軒を広げる案が挙がったので、それを基本と考えている。補完する形での屋根の設置を考えているが、3～4台はあった方がいいのかなと個人的には思う。

委員：張り出し屋根ではなく、徳洲会のようにコンクリートで構造物として丈夫なものを造ってもらいたい。

事務局：ご意見は基本設計に入れさせていただきたい。

委員：徳洲会のように路線バスが屋根の下で停車できるようになると、乗降車の際に濡れなくてすむ。

事務局：基本設計に入れさせていただきたい。

委員：ゴミ収集車は現在個人が管理していると思うが、きちんとした駐車を設けた方がいいのでは。

事務局：衛生管理組合などで検討しているので、一括で管理ができないか伝えておきます。

(担当課に確認した所、今後は個人宅でのゴミ収集車を駐車しない方向で検討しているとのことです)

◆6 ページ目について

委員：庁舎移転後、人の流れが変わって商店街がどうなるのかと危惧している。町民課や水道課の代金の支払いをする出張所を商店街の中につくれないか。住民票も取れるといい。現庁舎跡地内にでも。

事務局：「周辺の幅の広い道路」と書いたのは、あしびの郷を利用する際にさまざまなルートが利用されている現状があるため。新庁舎完成後は、安全確保のために一本化していきたい。現庁舎の跡地利用についてはこの後、協議させていただきたい。

委員：ドクターヘリのヘリポートを庁舎の上につくるという話は出ていないのか。

事務局：ドクターヘリのヘリポート建設については両町の話し合いの下に進めるべき事項。新庁舎建設には時間的な制約もあるため、町の総合計画の中で話していこうということになった。

委員：現在フローラルパークでは、ドクターヘリによって2時間くらいグランドゴルフのプレーが中断されることもある。クレームもあるし、パークの利用は危険性があるのではないかと感じている。代替場所を早急に検討した方がいいのでは。

事務局：フローラルパークを管理する企画振興課、防災関係の総務課で検討してもらおう。

◆7 ページ目について

委員：①建物費用の12億円に、現庁舎の解体費用が入っているのかどうか。更地にするとしたらいくらくらいを見積もっているのか。

②再生可能エネルギーについては、地下水を利用した空調設備だけなのか。それプラス、太陽光や風力発電、蓄電池などをセットで予算を計上しているのか。和泊町の風力発電は、月1千万円くらい（維持費が？）かかる。解体にも約1億円かかると聞いた。寿命が近づいているので解体のための基金を積み上げ始めているそうだ。そういったことも踏まえて、解体費用を含めた再生可能エネルギーの見積りを教えていただきたい。

事務局：①含まれていない。昨年12月27日の第1回会議の中で、知名幼稚園の単価を参考に、解体におよそ1億3000万円かかると見積りを立てた。古い建物を壊さなければ新しい建物が建てられない場合、国の補助金や地方債の対象となることがあるので、全額が一般財源とならないように進めていきたい。

②地中熱を使った空調システムの導入費用のみで、太陽光と風力については含まれていない。ただし、町の総合計画の中でも太陽光や風力については仕組みを考えていきたい。

委員：地下水を利用した空調設備導入に3分の2の補助を見込めるということだが、2億円すべてに関してなのか。補助がなかった場合に、空調設備を導入したときの予算額はいくらなのか。費用対効果を検証するとあるが、町民にどう説明していくのか。

事務局：試算では、2億のうち対象経費が1億5000万円、5000万円が対象外。その3分

の2なので、2億円に対して1億円の補助金を見込んで導入を検討している。初期投資費用一般財源の1億円に対して、電気代のランニングコストは半分くらいに減ると見込んでい
る。それに伴い、かなりの量のCO2削減が毎年見込まれる。維持経費に対して毎年半額に
なるので、14~15年程度では元が取れると試算している。次の世代のためにも、持続可能
なまちづくりを進めるなかで、一つの宣伝効果にもなると考えている。

◆7 ページ目について

石田先生：再生可能エネルギーに対しては、ZEB というシステムが国にある。これを導入
するとすべての空調関係の3分の2が補助されるシステムだが、残念ながら時間的に設計
が間に合わなかった。ただ、事務局から再生可能エネルギーは地中熱だけという話があっ
たが、太陽光も検討するという文言を答申の中に入れておいて欲しい。九電が満杯のため高圧
の買い取りができないので、太陽光発電をしてそれを売電することがどこまで可能なの
かという議論は、少し難しい議論になる。売電できれば収入になるが、一方で、電気を貯めて
おいて非常時に使用できるようにするという実験をしたい。個人的に実験を進めており、そ
れに寿命で余った蓄電池業者の電池が使えるので、新庁舎を建てている間に検討する余地
だけは答申の中に残しておいて欲しい。

委員：地中熱を利用している施設は（全国に？）いくつあるのか。

石田先生：実際に動いているところで20数か所ある。一般的には、夏場だと30度を超え

るエアコンの入り口の熱を 20 度まで落とすところを、地中熱を使えば最初から 20 度で入れられるというもの。ところが、この島は水温が 20 度くらいなので、熱交換だけで冷気が吹き出すようにできるかもしれない。そうするとコスト的に相当下げられる可能性がある。暖房はできないので冷房だけになるが、それでもいけるのか。1 月半ばからそういう実験ができる状態になるので、その様子を見ながら最終的にはコストをはじくことになる。

委員：運用後の修理が心配。与論や和泊庁舎など、普通の冷暖房なら 2 億もかからない。町民に 2 億も負担をかけて CO2 を削減するより、島の業者が修理できる方がいいのでは。島には専門的な技術者がいない。

石田先生：1 月末に改めて内容を説明すべきことだと思うが、普通のエアコンよりシンプルになり、故障する箇所も少なくなると思う。水を吸い上げて熱交換するだけなので。一番地下で何か起こる可能性がないとは言えないが、それ以外のところは通常の管理で十分できる。コスト的には通常のエアコンより、メンテナンスも含めてはるかに安くなると思っている。

委員：個人的な経験談。事務所と自宅の上に太陽光パネルをのせているが、パネルで直射日光を遮断できるので室温がかなり下がる。加えて、LED に変えて運用していたところ、電代が月に 10 万円減った。空調設備にも負担が少ない。絶対に効果があると思うので、太陽光とダブルでできるならいいはず。提言には残して欲しい。

事務局：そのようなことも含め、再生可能エネルギー導入についてぜひ答申に残したい。1月中旬以降、地中熱の業者に分かりやすいパネルのようなものを作ってもらいたい。

委員：財源について、新庁舎の管理費用は年間でいくらくらい見ているのか。

事務局：まだ具体的な数字は出せていないが、コストを抑えるためにできるだけ役場内でメンテナンスしていきたいと考えている。今後、皆さまにまちづくりの基本計画を出すときまでには準備したい。維持管理費用も、新庁舎建設基金から一部使うという構想ではある。具体的な金額については検討させて欲しい。

会長：先の会議で、商工会と新庁舎のアクセスについて、道路の設置等について要望があったので、周辺整備の項目に文言として入れて欲しい。

事務局：新庁舎と商店街をつなぐアクセスを検討するよう、答申の中に入れます。

3) 現庁舎の跡地利用

委員：商工会としては、多くの町民が利用できる場所を商店街に置いて欲しい。また、子育て関連施設があると便利。数年前、通行人数をカウントしたが、美屋ストア周辺で800人、Aコープ周辺で700人だった。その人数が全員上に行ってしまうと商店街がつぶれてしま

う。出納業務や住民票の発行など、機械のできる機能は出張所のような形で商店街に置いておいて欲しい。

委員：他の市町村で、公で建てた施設を民間業者が委託を受けて経営したが、うまくいかずに返還または辞退してしまうような例をよく聞く。うまくいっている事例を調べて、判断材料として与えてもらえるとありがたい。もう一つ公共施設を建てるとなると財政的に厳しいのではないかと思う。

委員：提示されている解体費用は、現在の本庁舎だけでなく、周辺の課の建物の解体もすべて含めた費用なのか。もし解体しなかった場合に、耐震問題はクリアできるのか。今後も使える建物なのか。

事務局：庁舎とその周辺を含めた解体費用を提示しています。なお、ほとんどの建物が昭和40～50年代に建てられたもので、一番新しいのが議会議事堂。本庁舎は縦にヒビが入ったりしている。耕地課・農林課の建物は本庁舎よりも古く、他の用途で利用するのは難しいかと思う。

委員：更地になると考えた方が現実的なのか。

事務局：本庁舎があまりにも古いというのが新庁舎建設の第一の理由なので、建物をすべて壊さなければ再活用は難しい。

事務局：更地にするとしたら 1 億円使わなければならない。町の事業としてするのであれば補助金などの可能性もある。また、建物解体費用も込みで土地を売るという選択肢もある。どれが現実的かは話し合っていかなければ分からない部分もある。

委員：～1：17：40 マイクオフのため聞き取れません～

事務局：町がつくって貸し出す、建物ごと買い取ってもらう等、パターンがいくつかある。どういう利用方法があるのかを、まずは話し合いたい。

委員：大きな資金がかかることなので、跡地利用はよっぽと考えなければ。もう少し時間が必要なのでは。

事務局：本日で決定することではないので、今後も話し合いを重ねたい。

委員：1 億 3000 万円で潰して、その土地をご活用くださいと（公募？）してもいいと思う。

会長：判断材料となる資料を用意して、今後何回かに分けて話し合っていきたい。

石田先生：未来の子どもたちに向けて、跡地を含めたエリア全体をワクワクする町にしたいという思いは強くある。今はお金がかかってできないかもしれないが、最終的にはこんなところにたどり着きたい、という話し合いを。「未来の子どもたちに手渡す」ことを前提として、夢を少し語ることをお願いしたい。ステップはあると思うが、短期的、長期的なイメージを持っていただきたい。